

《平成 10 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (第 1 種)

島根県の小型底びき網漁業 (かけまわし) 62 隻*の平成 10 年漁期前半 (平成 10 年 9 月 1 日~12 月 31 日) の総漁獲量は 2,587 トン、総水揚げ金額は 12 億 3 千万円でした。1 隻当たり漁獲量は 41.7 トン/隻、水揚金額は 1,987 万円/隻で、漁獲量はわずかに平年 (過去 5 年平均) を上回りましたが、金額は平年並みとなりました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 63 隻ですが、統計は 62 隻分の集計です。

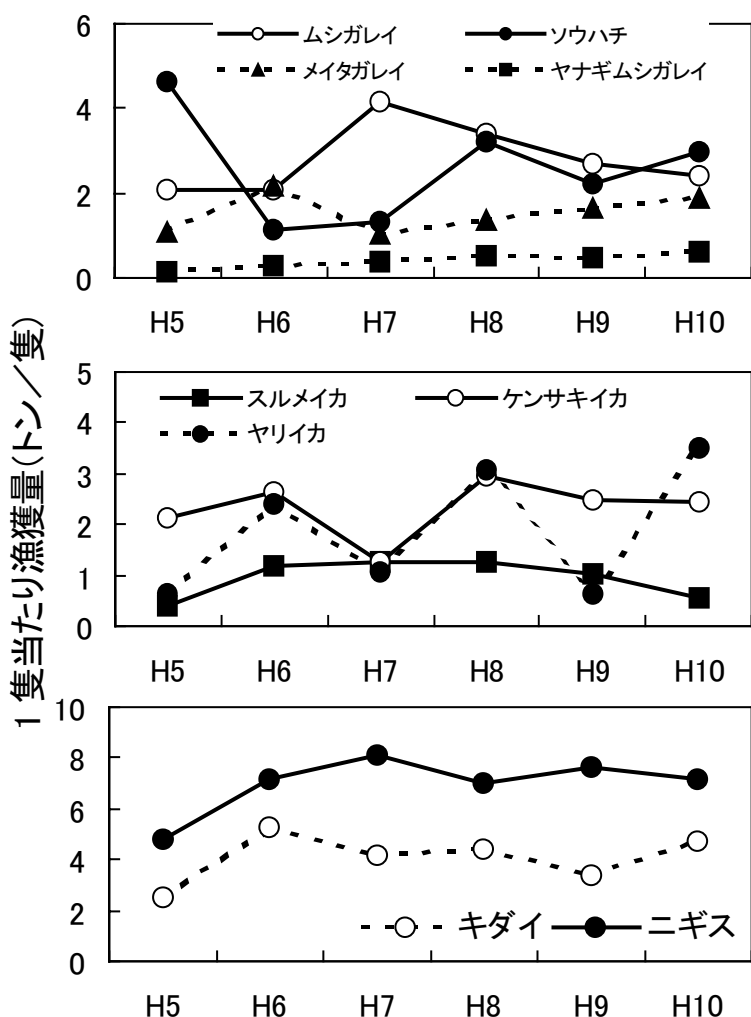


図1 島根県小型底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化.

カレイ類好調!

近年増加傾向を示しているソウハチ、メイタガレイ、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量はそれぞれ 3.0 トン/隻、1.9 トン/隻、0.6 トン/隻で前漁期を 15~36% 上回りました。特に、ソウハチは 11~12 月に、メイタガレイは 9 月にまとまった魚が見られました。一方、平成 8 年以降減少傾向を示しているムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.4 トン/隻で、前漁期を 10% 下回りました。

ヤリイカ急増! ケンサキイカ好調!

昨年不漁であったヤリイカは 10 月からまとまった魚が見られ、1 隻当たり漁獲量は 3.5 トン/隻で、前漁期の 5.6 倍、平年の 2 倍で平成 5 年以降最高の水揚げとなりました。近年、資源的に高水準にあるケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 2.4 トン/隻で前漁期並みの水揚げがあり、期間を通して好調に推移しました。ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 7.2 トン/隻で前漁期をわずかに下回りましたが、平成 6 年以降安定推移しており、資源的に高水準にあると推測されます。キダイは期間を通して当歳魚を中心に漁獲され、9~11 月にまとまった

魚が見られました。1 隻当たり漁獲量は 4.7 トン/隻で前漁期を 40%、平年を 15% 上回り、平成 6 年に次ぐ高い値となりました。

一昨年の秋以降、小底の主漁場の水温は平年より高めに推移しており、前漁期は冬季を中心に、冷水性の魚種が不漁でした。しかし、1 月下旬に実施した海洋観測結果では、日御崎沖に冷水域があり小底主漁場の水温は平年並みかやや低めに変化しました。今後盛漁期を迎えるソウハチ、ヤリイカの動向が注目されます。

沖合底びき網漁業

◆ 県西部

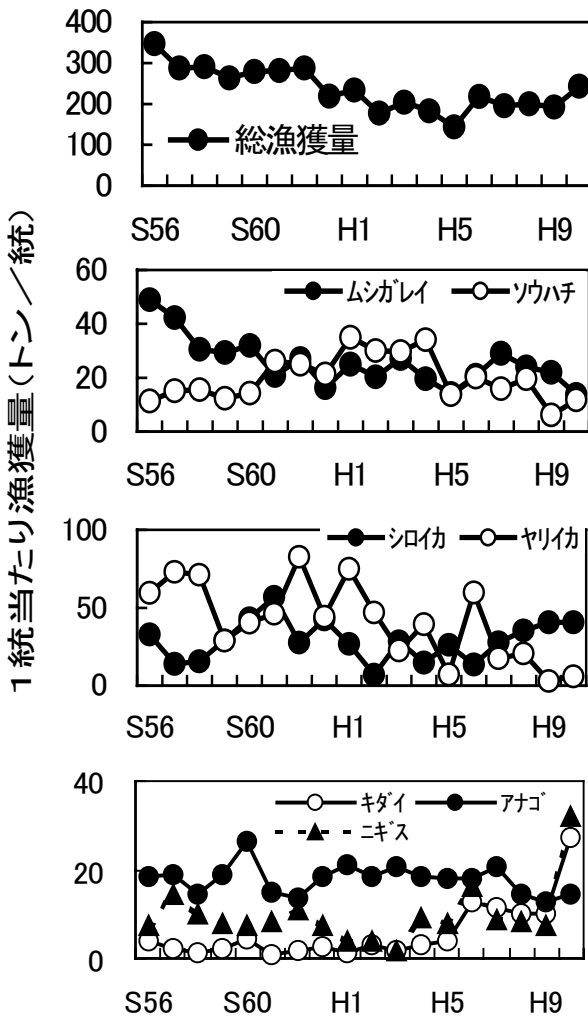


図2 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化。

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（6ヶ統）の平成10年漁期前半（平成10年8月15日～12月31日）の総漁獲量は1,457トン、総水揚げ金額は6億7,400万円でした。また、1ヶ統当たりの漁獲量は243トン、水揚げ金額は1億1,230万円で、量・金額とも前年および平年を上回りました。

ムシガレイ、ソウハチ不振

ムシガレイの1統当たり漁獲量は13.8トン/統で前漁期・平年を37%下回り、昭和56年以降最低の値となりました。一方、ソウハチの1統当たり漁獲量は11.8トン/統で昭和56年以降最低であった前漁期を上回りましたが、平年の52%に留まっています。市場調査結果より、ムシガレイ・ソウハチとも小型魚（当歳～1歳）が少なく、中～大型魚を中心に水揚げされています。

ケンサキイカ好調！・ヤリイカ不振

ケンサキイカ（シロイカ）は休漁明けから10月を中心にまとまった漁があり、1統当たり漁獲量は40.6トン/統で平年を55%上回り、資源状態が依然高水準にあると思われます。ヤリイカの1統当たり漁獲量は5.9トン/統で前漁期の2倍の水揚げがあったものの、平年の20%に留まっています。

キダイ・ニギス急増！平年の4倍の水揚げ

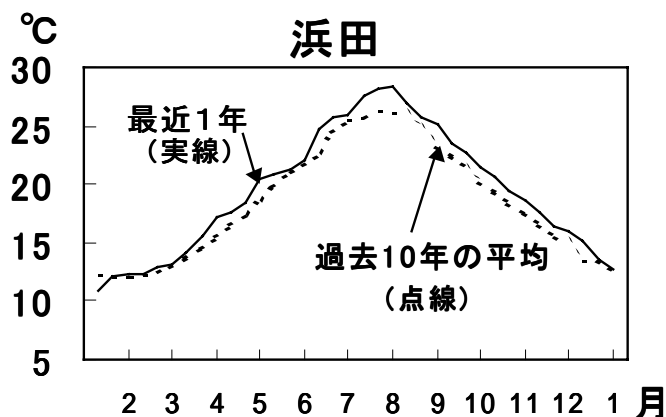
近年増加傾向にあるキダイは小底同様、期間を通してまとまった漁があり、1統当たり漁獲量は27.4トン/統で、前漁期の2.7倍、平年の4.6倍の水揚げがありました。ニギスは10月に水揚げが一時減少しましたが、1統当たり漁獲量は32.0トン/統で、前漁期・平年の4.3倍となっており、キダイとともに昭和56年以降最高の値となりました。一方、資源状態の悪化が懸念されているアナゴの1統当たり漁獲量は14.4トン/統で、平年を20%下回りました。この他、アンコウ、アカムツ、マダイの1統当たり漁獲量は平年を上回っており（1.5～4.4倍）、漁期前半は好調に推移しました。

県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成10年漁期前半の総漁獲量は887トンで前漁期および平年を上回りました。総水揚げ金額は4億8千万円で前漁期を約10%下回りましたが、平年をわずかに上回っています。

漁期前半はキダイ（115トン）、ウマヅラハギ（102トン）、ヤナギムシガレイ（85トン）、アンコウ（72トン）中心の水揚げでした。ヤナギムシガレイ、ウマヅラハギは平年の2.8倍、この他、アンコウ、ケンサキイカ、キダイは平年の1.8～1.4倍の水揚げがありました。一方、マコガレイ（平年比47%）は平年を大きく下回りました。この他、ムシガレイ、アナゴ、メイタガレイ、マダイも平年の70～80%に留まっています。

《 1月の海況 》



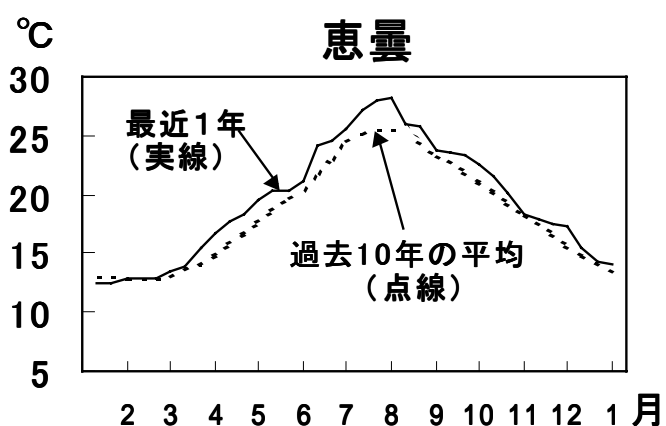
定地水温

1月	月平均	平年差	評価
浜田	13.8	+0.6	平年並み
恵曇	14.5	+0.3	平年並み

定地水温は、昨年夏季から、平年に比べ「やや高め」から「かなり高め」の水温が続いていましたが、浜田・恵曇ともに約半年ぶりに「平年並み」に戻りました。前月に比べ浜田で約2.9、恵曇で約3 低下しました。

また、島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(1月下旬~2月上旬)によりますと、山口県沿岸域では平年より「やや高め」~「かなり高め」の水温となっていました。

一方、島根県沖には冷水域が発達し、その周辺海域では平年より「低め」のところも見られますが、島根県沿岸から鳥取県沿岸にかけて、広い範囲でほぼ平年「並み」から「やや高め」の水温となっています。



《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は586トンで、前年の93%、平年の8%とほぼ前年並みでしたが、平年に比べ低調に推移しました。水揚金額は、マサバの好調によりほぼ前年並みとなりました。漁獲の主体はマサバ・マアジでした。また、恵曇ではマサバ、マアジを主体に164トンの漁獲があり、前年の258%と好調に推移しました。浦郷ではマサバ、マアジを主体に1,831トンの漁獲があり、前年の168%とこちらも好調でした。

【イカ釣り漁業】

浜田の地元小型イカ釣り船によるスルメイカ・ケンサキイカの漁獲箱数は83箱で、前年同期の21%と大きく減少しました。これは、出漁日数の減少が大きな要因と考えられます。一方、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量は、スルメイカを中心に約31トンの漁獲があり、前月まで漁獲されていたソデイカは大きく減少しています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は287トン、水揚金額は1億2,300万円でした。また1統当たり漁獲量は47.8トン、水揚金額は2,050万円であり、量・金額とも平年並みとなりました。魚種別で見ると、キダイ、ニギス、ウマヅラハギ、ケンサキイカは好調に推移し、平年の11~3倍の水揚げがありました。一方、例年盛漁期を迎えるソウハチ(平年比:53%)、ヤリイカ(平年比:25%)は不調であり、平年を大きく下回りました。

恵曇港の総漁獲量は前年並みの119トン、水揚金額は前年を30%下回り6,700万円で、量(平年比65%)・金額(平年比55%)とも平年を大きく下回りました。ウマヅラハギ、ケンサキイカ、ヤナギムシガレイは4.2~2.8倍の

漁獲があり、平年を大幅に上回りました。一方、ソウハチ、ニギス、アナゴは平年の約 40%に留まっており、低調に推移しました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協では、前年より航海数が10%増加し、1航海当たりの漁獲量(571kg)・水揚金額(30万円)は前年を上回りました。キダイ、ケンサキイカ、ソウハチ、ニギスは好調に推移し、前年の5.2~2.2倍の水揚げがありました。

大田市漁協では、航海数が前年より15%増加しましたが、1航海当たりの漁獲量(610kg)・水揚金額(32万円)は量・金額とも前年を15%下回りました。盛漁期を迎えたソウハチ、ニギスがまとまって漁獲され、全体の60%を占めています。また、ハタハタの漁獲量(4.6トン)が今月は急増し、前月の11倍、前年の34倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

県西部と東部では水揚げ日数が減少したこともあり、漁獲量、水揚金額とも前月の50%から20%程度まで大きく落ち込んでいます。隠岐地区は水揚げ日数はほぼ前月並みで、漁獲量、水揚金額は前月を50%程度上回っています。魚種は県西部ではヤリイカとケンサキイカが、東部と隠岐地区ではスルメイカとカワハギ類が主体となっています。また、東部ではサンマのまとまった漁獲がありました。期待された寒ブリの水揚げは皆無です。

【釣・縄】

前月に引き続き、例年ならこの時期ほとんど漁獲されないヨコワ(クロマグロ)やヒラマサが漁獲されていますが、出漁日数が減ったこともあり、漁獲量は前月を大きく下回っています。魚種は、浜田はブリとアマダイが、五十猛はヨコワ・ヒラマサが主体となっています。なお、前月までの浜田の漁獲量には釣以外の漁業種類が一部含まれていましたが、今月からは、5トン未満のイカ釣、ひき縄釣、一本釣、延縄のみの統計となります。

漁獲統計

平成 11年1月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航海 当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	18	マサバ・マアジ	33ト	586ト
	恵曇	10	マサバ・マアジ	16ト	164ト
	浦郷	10	マサバ・マアジ	48ト	1,831ト
イカ釣り	浜田(沖合)	124	スルメイカ・ヤリイカ	201箱	24,922箱
	浜田(沿岸)	15	ケンサキイカ	5.5箱	83箱
	西郷	141	スルメイカ・ソデイカ	220kg	31ト
沖底	浜田	22	ウマヅラヒギ・ニギス・ケンサキイカ	13.0ト	287ト
	恵曇	25	ソウハチ・ウマヅラヒギ・アカガレイ	4.8ト	119ト
小底	和江	283	ソウハチ	571kg	162ト
	大田市	166	ソウハチ・ニギス	610kg	101ト
定置網	浜田	16	ヤリイカ・ケンサキイカ・ソデイカ	148kg	2.4ト
	恵曇	9	スルメイカ・カワハギ類・サンマ	282kg	2.5ト
	浦郷	21	スルメイカ・マアジ・カワハギ類	643kg	15.4ト
釣・縄	浜田	449	ブリ・アマダイ	16kg	7.3ト
	五十猛	247	クロマグロ・ヒラマサ	32kg	7.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。